

立教学院 環境レポート

vol.9

2026 年 7 月
立教学院 省エネルギー推進連絡会 発行



立教学院の環境配慮に関する方針、及び取り組み

立教学院では、「立教学院 省エネルギー推進連絡会」を中心に、環境に配慮した取り組みを進めています。本レポートでは、2024 年度と 2025 年度に実施した具体的な取り組みと、その結果であるエネルギー使用量や CO2 排出量の推移をご報告します。

地球環境の保全については、行政や企業がそれぞれの目標を設定して対策を講じるだけでなく、私たち一人一人が日常的に小さな対策を意識し実践していくことが大切です。教育・研究機関として、また地域社会の一員として、持続可能な社会の実現に貢献します。

立教学院 環境保全の 取り組み方針

1. 環境に配慮した施設・設備の導入
2. エネルギー使用量の削減
3. 廃棄物・資源のリサイクル率向上
4. 化学物質等の適正管理
5. 進捗確認や啓発活動等の推進



2024 年度・2025 年度の CO₂排出量の概況

本学院の対比、排出量削減状況

対前年比で約 84% 下がりました。電力の受給契約を非化石証書付き電力プランへ変更したことにより使用電力に伴う排出量を実質的にゼロへ削減したことが寄与しています。

校 地	2024 年度	2025 年度	減少量
池 袋	8,523	1,041	△7,482
新 座	4,701	1,114	△3,587
その他(※1)	297	22	△275
合 計	13,521	2,177	△11,344

単位：t-CO₂

※1 その他は富士見、横須賀、上大崎が該当する。



2025 年度における取り組み事例

(1) エネルギー使用量の削減

節電・節水・節ガスに向けた取り組み（全学院）

集中リモコンによる空調の温度・スケジュール管理や、巡回によるこまめな消灯を実施。また、クールビズ・ウォームビズの実践に加え、スイッチ周辺に節電・節水ステッカーを掲示するなど、一人ひとりの意識を高めるための啓発活動にも力を入れています。

(2) 廃棄物・資源のリサイクル率向上

1) ゴミの分別方法などの見直し（立教大学）

2017 年度に実施した、ゴミの分別方法などの変更の結果、さらなる課題が抽出され、この課題を解決するため、適正な分別方法を周知するためのポスターのリニューアルを検討するなど、リサイクル率の向上に努めています。2025 年度のリサイクル率は 64%（2024 年度は 61%）で、廃棄物のリサイクル率は前年度対比で横ばいとなっています。

2) 落葉の処分（立教大学・新座キャンパス）

秋～冬に発生する大量の落ち葉について、新座・富士見市については複数の個人の協力のもと無償で引き取っていただいております。今後も継続していただく予定です。これらの落葉は堆肥化（腐葉土）され、リサイクルされています。

(3) 化学物質等の適正管理

1) 化学物質など

教育・研究で使用する化学物質及び排水処理について、法規を厳守した基準・マニュアルに準拠し、年間を通じて適正に管理しています。化学物質については、購入・使用・廃棄を一元管理する薬品管理システムを導入し、かつ定期的に棚卸を実施し、適正かつ厳正な管理を継続しています。

2) ポリ塩化ビフェニル（PCB）汚染物

各校全ての PCB 汚染物については、法規を厳守し、適正かつ厳正に管理しています。高濃度、低濃度共に新たに発覚した PCB 廃棄物の廃棄処理を完了させ、現在保管はありません。

3) 吹き付けアスベストなど

使用されているアスベストなどの全ての箇所について、封じ込め・囲い込み措置済みであり、現在飛散はありません。2024 年は小学校の解体工事時に新たに発覚しましたが適切に封じ込め措置を行い工事期間に適切に撤去を行う予定です。なお、措置済みの箇所は定期的な目視点検及び粉塵濃度測定を実施し、飛散状況の確認を継続しています。

(4) 進捗確認や啓発活動等

省エネルギー推進連絡会は設立以来、関係各校等で年度ごとに設定した取り組み目標について共有し、進捗状況の報告や課題や改善点についても相互に確認・点検を行っています。

東京都「総量削減義務と排出量取引制度」、埼玉県「地球温暖化対策計画制度」第3期の削減義務履行状況について新座キャンパスは義務に対して超過して履行できる一方で、東京都は目標に対して、446t/co2 未達となりました。東京都と埼玉県の排出量取引の連携制度を利用して、新座キャンパスの超過削減分を東京都内の削減義務に充当することで、学院全体として義務履行の目標を達成する予定です。また、今年度以降に始まる第4計画期間では、両都県でより厳しい削減目標が課されるため、引き続き省エネルギーへの取り組みを強化してまいります。



CO₂排出量、エネルギー使用量・廃棄物使用量の推移

2025年度のCO₂排出量は、2024年度対比でCO₂排出量が約84%減少となりました。使用電力の受給契約を非化石証書付き電力プランへ変更により使用電力に伴う排出量を実質的にゼロへ削減しました。



CO₂排出量

(t-CO₂)

16,000

12,000

8,000

4,000

0

2019

2021

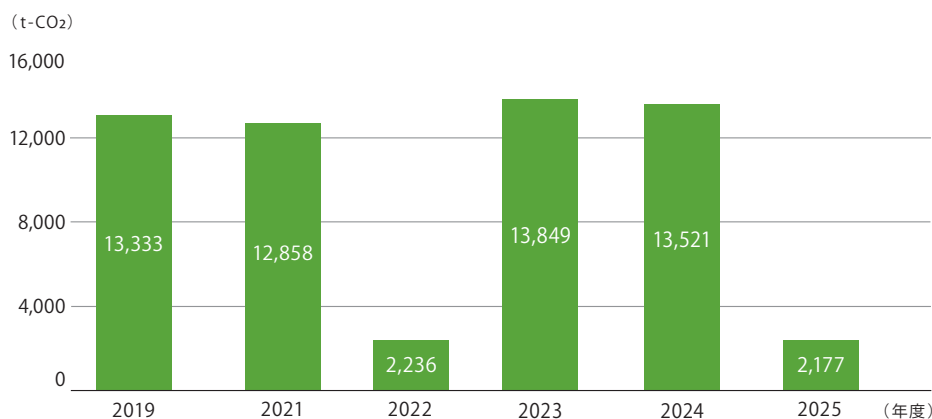
2022

2023

2024

2025

(年度)



電気使用量

(千kwh)

30,000

20,000

10,000

0

2019

2021

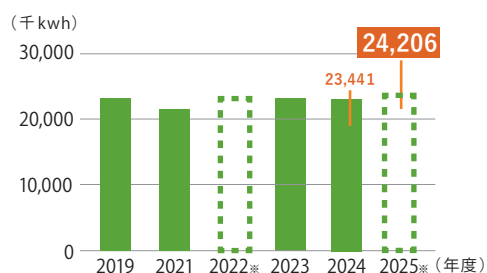
2022※

2023

2024

2025※

(年度)



※ 2022、2025年度は非化石証書付き電力受給により使用電力に伴う排出量は実質的にゼロ



ガス使用量

(千m³)

1,200

1,000

800

600

400

200

0

2019

2021

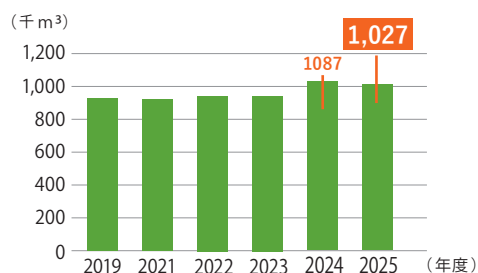
2022

2023

2024

2025

(年度)



水道使用量

(千m³)

500

400

300

200

100

0

2019

2021

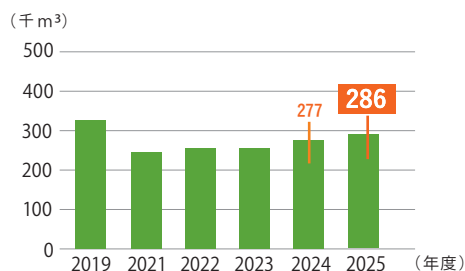
2022

2023

2024

2025

(年度)



廃棄物排出量

(t)

500

400

300

200

100

0

2019

2021

2022

2023

2024

2025

(年度)

